

INFORMATION

■附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」スケジュール

<附属博物館>

- ・『メディアデザイン大学院生展／小原志門』 無休
1月29日(火)～2月10日(日) 10:00～17:00

<附属ギャラリー>

- ・『めくるめくるファンタジー 絵本とその原画展』 無休
1月27日(日)～2月2日(土) 10:00～18:00 (最終日は～17:00)

- ・『第36回 京都嵯峨芸術大学 制作展』
2月6日(水)～10日(日) 9:00～17:00 無休

- ・『研究生展』
2月12日(火)～19日(火) 10:00～18:00 月休

- ・『2007年度 生涯学習講座 受講生作品展』
3月1日(土)～9日(日) 10:00～17:00 無休

○お問い合わせは博物館・ギャラリー課まで

TEL.075-864-7898 FAX.075-882-7770 museum@kyoto-saga.ac.jp

■ 本学教職員展覧会情報

- ・前田恭子／日本画
『個展』 2月6日(水)～2月16日(土) 石田大成社ホール(京都)

- ・土手朋英／日本画
『東京春季創画展』 2月28日(木)～3月4日(火) 高島屋日本橋店
『京都春季創画展』 4月15日(火)～4月27日(日) 京都市美術館

- ・清水豊／日本画
『東京春季創画展』 2月28日(木)～3月4日(火) 高島屋日本橋店
『京都春季創画展』 4月15日(火)～4月27日(日) 京都市美術館

- ・内海福溥／日本画
『京都春季創画展』 4月15日(火)～4月27日(日) 京都市美術館
『個展』 4月25日(金)～5月4日(日) ギャラリー青い風(京都)

- ・鳥山武弘／日本画
『鳥山武弘個展』 4月16日(水)～4月22日(火) 松坂屋静岡店

- ・箱崎睦昌／日本画、林潤一／日本画、西野陽一／日本画、猪熊柱子／日本画、西嶋豊彦／日本画
『NEXT展』 4月中旬開催予定 砺波市美術館(富山県)

- ・堀井聰／油画
『個展』 2月27日(水)～3月4日(火) 高島屋横浜店
『白日展』 3月21日(金)～3月26日(水) 国立新美術館(東京)

- ・日野田崇／陶芸
『現代の造形 Life&Art 陶で彩る』 2月9日(土)～3月16日(日) 東広島市立美術館(広島県)
『個展 "Collapsing Perspective"』 3月5日(水)～23日(日) Gallery ON(ソウル市／韓国)

- ・金氏脩介／観光デザイン
『あい・らぶ・ふえあ』(視覚障害者福祉啓発事業イベント) 1月27日(日)まで開催中 大丸京都店

- ・金氏脩介／観光デザイン、辻 勇祐／観光デザイン
『patina』 1月30日(水)～2月3日(日) 山口市民会館

■ 京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内

「KSUA ART PROJECT」展開中!

京都嵯峨芸術大学公式サイトにて

最新の大学情報をご覧くださいませ。

<PC> <http://www.kyoto-saga.ac.jp>

こちらのQRコードを使って、
携帯サイトにアクセスする
ことも出来ます。



■ 大学行事予定

連続公開講座 「京の美意識」スケジュール

- 「型絵染—私の制作」 2月23日(土)
伊砂利彦〈型絵染作家〉
- 「天台声明の実唱と今様歌」3月22日(土)
赤松隆成〈法住寺 住職〉
- 「信仰と菓子—祈りの変容—」4月26日(土)
太田達〈(株)老松 代表取締役社長〉

※いずれの回も14:00～
有響館G401教室にて (無料)
詳細は文化事業部まで。
TEL.075-864-7898

あらし山びこスケジュール

本学図書館の児童書コーナー「あらし山びこ」設置を機会とし、近隣の小学生や児童を対象に開催するイベント「あらし山びこ」。毎回テーマを決めて、そのテーマにまつわる絵本の読み語りや、お話などを地域の方と交流しながら展開します。

- 2月9日(土) テーマ「立春」
- 3月8日(土) テーマ「嵯峨の樹」

時間：13時30分～
場所：京都嵯峨芸術大学附属図書館
児童書コーナー

行事予定(2月～3月)

- 2月6日(水)～10日(日)
第36回 京都嵯峨芸術大学 制作展
(於:京都市美術館・大学キャンパス)

- 3月19日(水)
卒業・修了式
(於:大学講堂)
教育後援会主催祝賀パーティー
(於:グランドプリンスホテル京都)

京都嵯峨芸術大学広報

第 23 号
2008年1月25日発行

編集●京都嵯峨芸術大学 総務課 広報室
発行●学校法人大覺寺学園京都嵯峨芸術大学
〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859
FAX.075-881-7133
info@kyoto-saga.ac.jp

京都嵯峨 芸術大学 広報

KYOTO SAGA

UNIVERSITY OF ARTS

PUBLIC RELATIONS

VOL.23

JANUARY 2008

Contribution

文化事業部に期待するもの

京都嵯峨芸術大学 学長 三好郁朗

さらなる大学開放に向けて

京都嵯峨芸術大学 学術顧問 大竹仁子



News

理事会報告 理事長交代報告

大学報告 40周年記念事業報告／ニッポンノケシキ「bios」報告／入試報告／『第36回卒業・修了制作展』告知 ほか



大覺寺での花灯路展示風景

Topics

教員・在学生の活躍

「キネマCiao!」開催／「ヨシアートプロジェクト」開催／『ソウギョバスターズ展』開催 ほか
在学生・卒業生の活動(受賞)

公開講座

特別講座

地域連携

嵐山花灯路で本学学生が活躍／「あらし山びこ」落合直也講演会

大学行事

「嵐芸祭」開催!

博物館・ギャラリー報告



Information

附属博物館／附属ギャラリー

展覧会スケジュール

本学教職員展覧会情報

大学行事予定

公式サイトのご案内



KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS



●京都嵯峨芸術大学 学長 三好郁朗 文化事業部に期待するもの

“Not four years, but forty years”合衆国のある大学のキャッチコピーだそうです。学生としてだけでなく生涯にわたって大学を活用してほしい、そんな気持ちでしょうか。本学でも京都嵯峨野文化サロン、京の美意識、生涯学習講座など、大学と社会を結ぶとともに、学生諸君にも社会の中の大学を意識してもらう、そういう試みを展開しています。当初は企画広報室がすべての企画・広報活動を一括して担当しましたが、学生募集の状況が厳しさを増すにつれ、入試広報など通常的広報にかかる広報室と、教育研究の分野で新たな取り組みを提起する企画室とを分離し、それぞれ一層の充実を目指してもらいました。その一方で、本学独自の社会・文化活動のさらなる拡充を求める声も大きく、こちらは一般の広報活動と別組織にした方がよいと考えたわけです。

本学にとって第一の責務は、もちろん学生諸君の教育にあります。先生方にはそれぞ

れの研究・創作活動を通じて芸術教育のレベルを高めてもらわねばなりません。その結果本学に蓄積されていくであろう人的・知的資源を広く社会に開放することも、また、忘れてはならない活動です。現在、学外向けの活動には、生涯学習講座など本学の人的資源を活用できるものと、京都嵯峨野文化サロンや京の美意識のように、本学の企画・運営力を活用しながらも、人材は学外に求めているものがあります。あえて言えば、今後は前者の類の活動をより充実させていくべき

でしょう。生涯学習講座や、新たに開設した社会人特別講座を充実させるとともに、本学の先生方による文化講演会、各種のコンサルティング的業務など、これまでになかった企画もぜひ検討してもらいたいと思います。

目下のところ本学の社会・文化活動は、人手から経費まで大学の大幅な負担でおこなわれていますが、こうした活動を今後とも充実させていくには、運営基盤をそれなりに強化する必要があります。独立採算とまではいかないでしが、最低限の経費は受益者から頂戴し、その分で活動の規模や内容を高めていく、それがひいては本学の社会的評価を高めることになる、そういう方向へ転換をはかっていきたいと思います。文化事業部という看板は、現時点ではいささか大げさかも知れませんが、将来は大学附属の事業体として、人的にも財政的にも独立を目指す、そうした願いがこめられていると考えていただければ幸いです。

さらなる大学開放に向けて

●京都嵯峨芸術大学 学術顧問 大竹仁子



18歳人口激減期を迎えて京都から去る大学も多い中、本学では、「地域に根ざし、地域に開かれ、地域と共に生きる大学」を目指して、京都嵐山に留ることを決意しました。以来、短期大学に宿題の四年制大学や大学院も併設し、「企画広報室」を開設して、さまざまな企画に取り組んできました。そして今年度、大学の社会への開放をさらに推進するために「文化事業部」を新設しました。今回は、これまで連続講座「京の美意識」、「京都嵯峨野文化サロン」、「生涯学習講座」等の企画を立ててこられた大竹仁子先生にインタビューしました。

まず「京都嵯峨野文化サロン」の企画ですが、フランス文学を研究しておられる先生がどうして日本文化の企画なのかお聞かせください。

一直接の動機は、本学の母体である大覺寺の坂口博翁前理事長から大覺寺と大学とが連携して何かやれないかとの提案があったことです。大覺寺は嵯峨天皇の旧御所ですから、その特色を十分活かすとなると、やはり日本文化、とりわけ平安時代の美意識を反映するような企画がいいと思いました。それに、逆説的ですが、外国文化を研究していると、かえって日本文化が大切に思えてきます。外国の友人たちが来ると、まず質問するのは日本文化についてです。答えなければなりませんから、少しは知識を仕入れます。たちまち日本文化の魅力や奥深さに惹かれました。特に日本は自然が素晴らしい。その素晴らしさが人間の感性や知恵や技を通してさらに美しいものになっています。そういう世界を多くの人たちと共有したくなりました。小説や詩を長年読みましたから、手取り早く日本の『古典文学』をと思い、『平家物語』、『梁塵秘抄』、『古今和歌集』と新古今和歌集、そして3年続けて『源氏物語』をテーマに、講演と芸能を組み合わせました。講演だけでなく芸能との組み合わせというのが特色で、参加してくださる人たちに五感全てで味わっていただきたかったです。夜の大覺寺はこういう催しには最適です。本当に贅沢な時が流れます。昨年は園田学園女子大学の福嶋昭治教授と雅樂師の東儀秀樹氏にご出演いただきました。深い作品解釈と妙なる笛の音や衣装のおかげで、はるか昔を生きた光源氏と出会えたような感動を体験できました。

連続講座「京の美意識」も開設されて3年になるのですね。

一はい、2008年の1月で30回目を迎えました。この講座は新校舎「有響館」の完成記念で始めました。歴史都市京都が誇る伝統工芸や芸能に従事しておられる方に実演をまじえて講義をしていただいている。毎回多くの参加者があり、登録者は400名を越えています。昨年度から学生にとっても単位取得科目になりました。地域の方々と学生とが肩を並べて講義を聴くというのもとても大切なことだと思います。世代の格差を持ちながら、お互いに違った情報の中にいる人間同士が、視点の違う質問を交換し合うという貴重な経験の場となっています。大学というのは家庭や親しい人たちの集まりでは経験できない、さまざまな異種の人や物との出会いの場でもあると思います。そういう出会いの場をできるだけ多く作りたいと思っています。今年度は講演だけでなく、実際に体験できる現場での講座もいくつか開設しました。

生涯学習の状況はいかがですか?

—2003年に開設した当初は10講座で受講生も241名でしたが、今年度は49講座で受講生は676名になりました。来年度は52講座を予定しています。この講座は本学を退職されました先生方にもお手伝いいただいております。本学が長年蓄積してきた教育・研究の成果を社会に還元するという意味もあって、できるだけ多くの方に受講していただけるよう廉価で提供しています。生涯学習という名称の通り、ずっと続けていただけるよう、さまざまな工夫をしていきたいと思います。

NEWS

理事会報告

理事長交代報告



黒髪寛延 新理事長

大本山大覺寺執行長である坂口博翁理事長は、2007年(平成19年)11月14日を持ってその任期が満了となり、本大覺寺学園の理事長職を退任せすることになりました。1999年(平成11年)12月に就任以来、8年の長きにわたり、京都嵯峨芸術大学芸術学部の新設、研究棟および有響館の建設、学生ホールの整備、さらに大学院の設置等、大学の発展に多くの重要な事業に尽力されました。後任には、2007年(平成19年)11月9日開催の理事会において、新たに大本山大覺寺執行長に就任となった黒髪寛延氏が新理事長として選任されました。11月15日から本学園の理事長として、創立40周年記念事業を中心とした学園のさまざまな事業に、大学の教職員とともに取り組んでいくことになりました。

なお次号にて、黒髪寛延新理事長の特別寄稿を掲載する予定です。

大学報告

40周年記念事業報告

本学創立40周年記念事業の大きな事業であるキャンパス整備計画マスター・プランの作成がいよいよ始まりました。

た。旧学舎の改修、学園史の編纂、記念式典など、それぞれにおいてマスター・プランを作成し、理事会に諮る予定です。

ニッポンノケシキ「bios」報告



JR京都駅ビルでの「bios」展示風景

本学園の母体である真言宗大覺寺派大本山大覺寺に中興の祖、後宇多法皇が入山されて2007年(平成19年)で七百年となります。これを記念して、2007年(平成19年)10月24日(水)～26日(金)の3日間、大覺寺では記念大法会が営まれ、JR京都駅ビルではいけばな嵯峨御流「日本をいける」プロジェクト～ニッポンノケシキ～が開催されました。本学も芸術学部メディアデザイン学科の松本泰章准教授を中心に作品を制作、嵯峨御流のいけばなとコラボレーションした映像作品を出展しました。作品にはギリシア語で生命を意味する「bios」と名付け、伝統の美であるいけばなを、日本の最新技術の華である大型映像パネルで囲む展示としました。大型映像パネル(50イ

チプラズマハイビジョンパネル)を10枚並べることのできる高さ2m長さ15m程の構造物を、嵯峨御流のいけばなを中心に半円状に設置し、人々は実際のいけばなの姿、ディスプレイに映された花芯や花びらの高精細で、ディテールの豊かな映像を身体全体で感じることで、自然との共生の豊かなイメージを得ることができます。期間中は、全国から集まった華道関係者はもちろんのこと、京都駅を利用する多くの国内外からの観光客、ビジネスマン、学生の方々に突如京都駅に現れたいけばな、映像作品をご覧いただき、大盛況の内に3日間のイベントを終えることができました。

FD:シンポジウム報告

11月28日(水)、本学AVホールにて「FD:シンポジウム「芸術大学で学ぶということ」」を開催しました。

近年、芸術大学で何を学ぶかという根本的な問い合わせ持たずに入学する学生が増えてきている中、美術やデザインを学ぶことによって何を得ることができるのか、また何を表現しえるのかについて、本学の箱崎芸術学部長、森本法会が営まれ、JR京都駅ビルではいけばな嵯峨御流「日本をいける」プロジェクト～ニッポンノケシキ～が開催されました。教員はその過程で学生とのコミュニケーションを深め、個性を理解した上で教育の指針をしっかりと見据え、時代や社会の変化にも耐えうる普遍的な価値を教えることが必要であると強調されていました。

NEWS

入試報告

2008年度入試も前半戦を終了しました(本稿作成時12月現在)。4年目を迎えるAO入試は、今年も夏休み終盤に行われた体験授業への参加から始まり、エントリー者数は芸術学部で76名、短期大学部で43名を数えました。芸術学部で昨年のエントリー者数を上回ったものの、短期大学部では厳しい結果となりました。推薦入試については短期大学部が10月28日(日)、芸術学部が11月4日(日)、5日(月)の2日間実施しました。志願者は芸術学部で188名、短期大学部で76名となりました。昨年に比べ、やはり少子化の影響が徐々に出てきていますが、一般入試(前期)から始まる後半戦に向けて最後の追い込みをかけていきたいと考えています。

2007年度9月卒業報告

2007年9月26日(水)の教授会において、芸術学部2名、短期大学部8名、専攻科1名の卒業を認定し、10月3日(水)に卒業式を執り行いました。

第36回卒業・修了制作展告知



過去の制作展会場風景

学生生活の中で磨いた感性と表現力を発表する、1年に一度の大学を挙げて行う展覧会です。京都市美術館では、「卒業・修了制作展」として、芸術学部4回生、大学院生、短期大学部2回生、専攻科の作品を発表します。また、大学内では「進級制作展」として、学内を美術館と見立てて、芸術学部2・3回生および短期大学部1回生の作品を展示いたします。つねに新しい表現への挑戦が展開される“嵯峨芸”の制作展をぜひご覧ください。

○展覧会名

『第36回 卒業・修了制作展』

○会期

2008年 2月6日(水)～2月10日(日)

○時間

10:00～17:00

※京都市美術館の入場は～16:30

○会場

「卒業・修了制作展」=京都市美術館

・地下鉄東西線「東山」

・市バス「京都会館美術館前」下車

「進級制作展」=本学

・阪急電車「松尾」

・京福電鉄「車折神社」

・市バス「京都バス「車折神社前」下車

※会期中は両会場間で無料シャトルバスを運行します。詳細は事務局・教務課までお問い合わせください。
TEL:075-864-7867
kyomu@kyoto-saga.ac.jp



第36回制作展のDMデザイン

TOPICS

教員・在学生の活躍

「キネマCiao!」開催

10月30日(火)～11月30日(金)の期間、西陣千本商店街において観光デザイン学科の桑田ゼミ3回生たちが企画した「キネマCiao!」が開催されました。これは今秋全国上映されていた東映の映画『オリオン座からの招待状』の宣伝と、舞台となった上記商店街活性化イベントとして学生が企画提案したものです。上記商店街の各店舗に、昭和30年代の手描き映画看板風のポスターを飾るという企画の面白さなどによって、多数のメディアにも取り上げられ、多くの商店街を訪れる人に楽しんでいただくことができました。

「ヨシアートプロジェクトーLiving Thinkー」開催



11月10日(土)、11日(日)に、滋賀県大津港周辺で開催された「全国豊かな海づくり大会ーびわ湖大会ー」に、本学の造形学科彫刻分野の学生が中心となってヨシのオブジェを出展しました。この大会は海や湖の環境保全に対する意識を高めるために、毎年海のある都道府県で開催されます。(※びわ湖は漁業法上海として取り扱われています) 同大会に、びわ湖の水質浄化作用のあるヨシを使った椅子・テーブル・ベッドなど生活と密接に関わる家具を出展し、環境に対するアピールを行いました。

「第26回京都府文化賞」にて功労賞を受賞！

京都の文化の向上に寄与した人に贈られる「第26回京都府文化賞」にて、日本画家である本学の林潤一教授が「功労賞」を受賞されました。

『1000人のどろんこ：ソウギヨバスターズ展』開催

ソウギヨを駆除し、大覚寺にある大沢池の景観修復に取り組む「ソウギヨバスターズ」。10月20日(土)～26日(金)の期間、真板昭夫教授が実行委員会の代表を務める同チームの活動をまとめて紹介する報告展『1000人のどろんこ：ソウギヨバスターズ展』が鳥丸御池の商業施設「新風館」にて開催されました。会場では、2001年に発足し、池にスイレンなどを取り戻すまでの7年間の活動をパネルで紹介。ソウギヨの骨格模型や活動に関わった学生らの感想コーナーもあり、見応えのある内容でした。

『神戸ビエンナーレ2007』開催

10月6日(土)～11月25日(日)の期間、神戸メリケンパークにて『神戸ビエンナーレ2007』が開催されました。輸送用コンテナを展示空間に見立てた『アートインコンテナコンペティション』をはじめ、『ユニバーサルデザイン(UD)ポスターコンペティション』、さらに『現代陶芸コンペティション』など様々なイベントが行われ、本学関係者も多数関わり、各所で活躍しました。

『第5回ヴィジュアルヴォイス展 韻色』開催

『第5回ヴィジュアルヴォイス展 韵色』が「新風館」にて10月20日(土)～26日(金)に開催されました。本学教員による企画・指導のもと、13名の本学卒業生、在学生などによって構成されているデザイン研究グループが韻色(き

よういろ)と設定した京都らしい100通りのカラーチャート(色見本表)を定めて独自のネーミングを作成。実際の街中の風景画像と、カラーバリエーションを変えた風景画像を比較検証するなど、都市景観問題に一石を投じる魅力的な提案がなされていました。



第5回ヴィジュアルヴォイス展会場風景

『世界遺産と地域振興』が発刊

本学の藤木庸介准教授が執筆(共著)された『世界遺産と地域振興－中国雲南省・麗江にくらす』が世界思想社より発刊されました。地域振興のツールとしての「世界遺産登録」と「観光開発」の可能性と問題点を、現地資料や住民の生の声を詳細に分析し、眞の地域振興を研究した内容です。



『世界遺産と地域振興－中国雲南省・麗江にくらす』
山村高淑編／張天新編
／藤木庸介編
定価2100円(税込)
2007年12月発行

在学生・卒業生の活動(受賞)

公募展等で受賞！

各公募展において本学在学生および卒業生が活躍しています。

○「第5回ふろしきデザインコンペ」
日本風呂敷協会主催
佳作／井上雄太(観光デザイン学科2回生)、伊藤現(観光デザイン学科3回生)

○「2007夢の自転車アイデア募集」
ホビーサイクルプロジェクト委員会主催
近未来型自転車部門 佳作／岡田考博(観光デザイン学科3回生)



「2007夢の自転車
アイデア公募」
特別団体賞
トロフィー

○「第17回京都広告賞」

京都広告業協会・日本広告業協会主催
ポスター部門 佳作／杉村有理歌(短期大学部専攻科2回生)、深見友見(観光デザイン学科3回生)

○「第32回全国大学版画展」

大学版画学会主催
町田市立国際版画美術館収蔵賞／大野紅(造形学科版画分野4回生)、西出元(大学院1回生)
※受賞作品は町田市立国際版画美術館にコレクションされ、巡回展が開催される予定です。

○「アミューズアートジャム2007 in 京都」

毎日放送主催
グランプリ部門 準グランプリ／木下寛明(造形学科メディアアート卒業生)

公開講座

公開講座「狩野永徳筆 唐獅子図とライオンとはどう違うのか」開催

京都に生まれ、安土桃山時代、一世を風靡した天才絵師・狩野永徳が描いた「唐獅子図」は実際のライオンとは一体どう違うのかを、10月26日(金)に佐々木正子教授と、京都市動物園学芸員の坂本英房氏のトークによって明らかにしていきました。本講座は、坂本氏に実際のライオンの生態を動画で紹介いただいた後、永徳の「唐獅子図」をスクリーンに投影し、佐々木教

授が絵画史的考察を加え、実物を見ることの出来ない猛獸の力強さを表現した創作の工夫について解説するという進行内容でした。聴講生はみな、興味深く熱心に聞き入っていました。

また、本講座は同時期に京都国立博物館で開催されていた『狩野永徳展』にも則した内容であったため、大学周辺地域を含む一般の方々にも多く来場していただきました。

特別講座

特別講座「三沢厚彦 アニマルズ+」開催

象やキリン、犬に鹿など、実物大の動物の彫刻で現在注目を集めている京都出身の彫刻家・三沢厚彦氏をお招きし、11月13日(火)に特別講座を本学AVホールにて開催しました。彼が制作する樟を用いた木彫りの動物作品はみな愛くるしい表情を浮かべており、大人から子供までを魅了しています。今回の特別講座では、制作現場や展覧会場の映像を見つつ、作品が生み出される様子について語っていました。また、多数の学生からの質問にも親切にお答えいただき、受講者にとって実りある講座となりました。



地域連携

嵐山花灯路で本学学生が活躍

今年で3年目を迎える、冬の恒例観光イベントとして定着してきた嵐山花灯

路。今年も本学の学生が様々な形で活躍しました。彫刻分野の学生による夜の闇に浮かび上がる立体作品や、今や嵯峨野名物にもなりつつある短大デザイン分野を中心とした学生による巨大提灯が大覺寺エリアを彩り、観光デザイン学科学生はおもてなしの心を持ったデザイン灯りやパフォーマンスで会場各所を盛り上げました。

「あらし山びこ」落合直也講演会

本学附属図書館主催第24回「あらし山びこ」は、11月10日(土)にBL出版株式会社取締役編集部長である落合直也氏を講師にお招きして講演会を開催しました。テーマは「絵本との出会いー絵本作家を目指すたまごたちへー」。編集者としての立場からの絵本の見方や、作者との関わり等についてお話を伺いました。落合氏は、ガブリエル・パンサンの作品を日本に紹介した方で、他にも海外の秀作絵本を積極的に紹介されています。創作絵本の編集にも力を注ぐ等々、普段は黒子として表に出ない編集者の生の声は聴衆を深く傾かせるものでした。200名以上の参加者があり、落合氏への関心の高さが表していました。将来絵本を作りたいと思っている人達にとっては、特に興味深く、有益な講演会でした。

ル、土肥ポン太、ストリークと漫才が続いた後、最後に観客との交流トークもあり、中庭ステージは最高潮に盛り上がりました。その他、今年からはじめた『前展』(前期に作成した作品の発表の場)には2日間で600人の入場者がありました。また例年実施している学生の公募作品による展覧会『嵐展』、多種にわたる食品を取り揃えた模擬店、学生作品などの掘り出し物も見つかるフリマ、第一人者によるインドネシア舞踊、卒業生ライブ等が行われ、学内外の多くの人に楽しんでもらいました。



博物館・ギャラリー報告

博物館・ギャラリー企画展報告

●『鯛天成雄展／Nario Bird TAITEN Exhibition』

2006年に急逝された鯛天成雄名誉教授のデザインワーク、約90点を展示しました。会期中には多くの卒業生や知人が来場され、あらためて氏の多くの仕事に感心されました。なお、ご遺族の方より氏の作品4点をご寄贈いただきました。

会期:2007年11月13日(火)～11月25日(日)
会場:附属ギャラリー

●『京の人形展』

故・林司馬先生より寄贈された貴重な江戸時代の人形を中心に、本学が所蔵する氏の模写及び写生を展示しました。

会期:2007年11月13日(火)～12月20日(木)
会場:附属博物館

●『版画収蔵品展』

会期:2007年11月29日(木)～12月20日(木)
会場:附属ギャラリー